

Writing Samples

Precious One English School Writing 添削サービスは「有言実行型」だから理解→成果に繋がる！

Precious One English School では、「なぜ通じないのか？」に重点を置いた添削をしております。そのため、English Writing を提出していただく際、いっしょに書き込んでいただくことがいくつかあります。

最も言いたいことは（入力してください）

本文	Audience Information (読み手は誰なのか)
	距離 (読み手との距離や、内容での大切な距離)
	立ち位置・目線 (自分の立ち位置や何を見ているか)
	考え方 (+ - や考え方の中心)

<最も言いたいことは>

文字数に関係なく、メインテーマを意識して書いていただきたいのです。伝えたい、中心になることが実際に書けているか？あるいは、書いたあと、メインテーマを書き込み、それに沿うように書き直しをしていただけます。

<Audience Information>

誰に向かって書いているのか？は Writing において最も重要な要素です。具体的な相手をイメージして書いていただけます。実際の E-mail の添削などでは選ぶのが簡単でしょう。が、小学生の頃から「Audience」を選んで書くという習慣がない方も多くいらっしゃいます。そのため、「無難」「平均的」「普通」などの書き方をしまい、伝わるのが伝わらないことが多くあるのです。常に意識していただくために、この欄で教えていただけます。

以下 3 つは英語の本質を押さえているかどうか？を測るために有言していただく項目です。英語ではひとつひとつのセンテンスにこの 3 つが入っているので、単純に日本語→英語にしているとこれが失われます。

<距離>

読み手と書き手の距離

テーマと自分の距離

ある出来事と出来事の距離

など、あらゆる距離の検討をしてみてください。その距離感が敬語や前置詞、助動詞などに直接的に関連してきます。

<立ち位置／目線>

書き手がどこに立っていて、読み手に何を着目してもらいたいのか？はここで表現されます。前置詞の選び方や、時制、助動詞、接続詞、語彙そのものなどに影響があります。現在から過去を振り返っているのか、現在から未来を見ているのか、から始まり、重点目線をどこに持っていきたいのか？を考えて書き込んでください。

<考え方>

ネガティブ vs. ポジティブ

賛成 vs. 反対

感情、論理、

などなど、考え方が入っているかどうか？が英文での伝わり方の重要点なので、まず結論を先に出して、追加情報を次々伝えていけているかどうかを見ていきます。

添削をし始めたばかりのときには、言いたいことが伝わるかどうか、とても気になると思います。その場合は、本文に「日本語」を書くこともアリですが、この「有言実行」の欄に書き入れていただくことで、英語のみで何をどう伝えたいのか？が推測可能になり、よりよい添削を実現できます。複雑なことを表現したいときには、日本語での補足をしていただいてOKですが、できるだけ、この基本情報から外れないことを意識して、英文を書いてみてください。

しばらくは、日本語を英語に変換する作業をしてしまうのですが、この要素を入れ込むことが可能になると、英語のまま書き出すことができるようになります。この英語の本質 3つを入れ込むことができると、話すこともまったく日常的な習慣として身につけていること確実です！